

イスラエルの人々⑩

□イスラエルの人々の信仰の手本（失敗から学ぶ）

さて、アロンの子ナダブとアビフはそれぞれ自分の火皿を取り、中に火を入れ、上に香を盛って、主が彼らに命じたものではない異なる火を主の前に献げた。すると火が主の前から出て来て、彼らを焼き尽くした。それで彼らは主の前で死んだ。（レビ10：1～2）

□前回までの振り返り

1. エジプトを出た月を第一の月とする。イスラエルの民は、第一の月（4月）の十五日にエジプトを出発した。そして、第三の月（6月）の一日にシナイ山のふもとに着いた。主は、シナイ山の山上でモーセに、幕屋の製作を命じた。
2. その年の後半（10月から3月）、約6か月をかけて、イスラエルの民は、幕屋の各部品を製作した。シナイ山の山上で主がモーセに命じられたとおりに、できあがった。
3. 二年目の第一の月（4月）の一日に、主がモーセに命じられたとおりに、イスラエルの民は幕屋を設営した。そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。（ここまでが、出エジプト記）
4. イスラエルの民は初めて、幕屋と祭壇と洗盤を見た。主はモーセを幕屋に呼び、祭壇でささげるささげ物についての定めを告げ、イスラエルの民にこれを命じた（レビ記1章～7章）

□イスラエルの人々の信仰⑩ 油注ぎを受けた者の責任

1. 主の命令（出40：9～15）と油注ぎ（レビ8：1～13）

	主の命令（出40：9～15）	油注ぎ（レビ8：5～13）
①	9節 あなたは注ぎの油を取って、幕屋とその中にあるすべてのものの油注ぎを行い、それと、そのすべての用具を聖別する。それは聖なるものとなる。	10節 それから、モーセは、注ぎの油を取って、幕屋とその中にあるすべてのものに油注ぎを行った。こうしてそれらを聖別した。
②	10節 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具の油注ぎを行い、その祭壇を聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。	11節 a さらに、それを祭壇の上に七度振りまき、祭壇とそのすべての用具の油注ぎを行い、それらを聖別した。
③	11節 洗盤とその台の油注ぎを行い、これを聖別する。	11節 b また洗盤とその台の油注ぎを行い、それらを聖別した。

④	12節 また、あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口近づかせ、水で洗い、	5～6節 モーセは会衆に言った。「これは、主が行うように命じられたことである。」モーセは、アロンとその子らを近づかせ、彼らを水で洗った。
⑤	13節 a アロンに聖なる装束を着せ、 (詳細な命令は、出28章)	7～9節 そしてアロンに長服を着せ、飾り帯を締め、その上に青服をまとうせ、さらにその上にエポデを着せた。すなわち、エポデのあや織りの帯で締めて、彼にエポデを着せた。次に、彼に胸当てを着け、その胸当てにウリムとトンミムを入れた。また、彼の頭にかぶり物をかぶらせ、さらに、そのかぶり物の前面に金の札すなわち聖なる記章を付けた。主がモーセに命じられたとおりである。
⑥	13節 b 油注ぎを行って彼を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせる。	12節 また、注ぎの油をアロンの頭に注いだ。こうして彼に油注ぎを行い、彼を聖別した。
⑦	14～15節 また彼の子らを近づかせ、これに長服を着せる。彼らの父に油注ぎをしたように、彼らにも油注ぎをし、祭司としてわたしに仕えさせる。彼らが油注がれることは、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためである。	13節 次に、モーセはアロンの子らを連れて来て、 彼らに長服を着せ、飾り帯を締め、ターバンを巻いた。 主がモーセに命じられたとおりである。

アロンの子らの装束について・・・

出28:40 あなたはアロンの子らのために**長服**を作り、また彼らのために**飾り帯**を作り、彼らのために、**栄光と美を表すターバン**を作らなければならない。

2. アロンと彼の二人の息子ナダブとアビフを祭司職に任命する (レビ8:14～36)

(1) 主の命令・・・出29章

(2) 主の命令のとおり、三種類のささげ物を、毎日、7日間、献げた

① 罪のきよめのささげ物 (8:14～17) 雄牛

- ② 全焼のささげ物（8：18～21） 雄羊
- ③ 任職のためのささげ物（8：22～30） もう一匹の雄羊

(3) 任職式の7日間は、会見の天幕の入り口から出てはならない

33～36節 また、あなたがたの任職の期間が終了する日までの七日間は、会見の天幕の入り口から出てはならない。あなたがたを祭司職に任命するには七日を要するからである。この日行ったように、主は、あなたがたが自分のために宥めを行うように命じられた。あなたがたは会見の天幕の入り口で七日の間、昼も夜もとどまり、主への務めを果たさなければならない。**自分たちが死ぬことのないようにするためである。**私（モーセ）はそうように命じられたのである。」
アロンとその子らは、**主がモーセを通して命じられたことをすべて行った。**

3. 任職の期間7日を経て、8日目、アロンによる、ささげ初め（レビ9章）

9：22～24 こうして、アロンは民に向かって両手を上げ、彼らを祝福し、罪のきよめのささげ物、全焼のささげ物、交わりのいけにえを献げ終えて壇から降りて来た。モーセとアロンは会見の天幕に入り、そこから出て来て民を祝福した。すると主の栄光が民全体に現れ、火が主の前から出て来て、祭壇の上の全焼のささげ物と脂肪を焼き尽くした。民はみな、これを見て喜び叫び、ひれ伏した。

4. ナダブとアビフは異火を献げたために主の前に死んだ（レビ10章）

(1) 10：1～2 さて、アロンの子ナダブとアビフはそれぞれ自分の火皿を取り、中に火を入れ、上に香を盛って、**主が彼らに命じたものでない異なる火**を主の前に献げた。すると火が主の前から出て来て、彼らを焼き尽くした。それで彼らは主の前で死んだ。

- ① 火皿・・・ヘブル語でマフター、「取る（ハーサー）」という動詞から出た語で、炭などを取り、燃やし、運ぶための青銅、金、銀などの器である。出27：3の「火皿」は、祭壇の用具で青銅製。出25：38の「芯取り皿」は七枝の燭台のための用具で、純金製。
- ② 自分の火皿・・・①にあげたような、幕屋のために製作された用具ではなく、アロンの子らの個人用の火皿なのか？ 「火を入れ、上に香をもって」とあるので、この器の構造は、火皿というより、香炉である。しかし、幕屋の中で香をたく場所は、香炉ではない。「香をたくための祭壇」（出30：1～10）の上で香をたかねばならない。
- ③ 異なる火・・・幕屋で用いる火は、祭壇から取られる（レビ16：12）。祭壇

の火ではない火を「異なる火」という。

- ④ 香・・・幕屋で用いる香は、所定の材料と割合によって調合されたもの（出 30：34～36）。その割合で作る香を自分たちのために作ってはならない（出 30：37）また、これと似たものを作って、これを嗅ぐこともしてはならない（出 30：38）。アロンの子らが「自分の火皿」にこの香をもったとすると、自分の天幕でこの香を嗅ぐ目的があったのかもしれない。
- (2) 10：3 モーセはアロンに言った。「主がお告げになったことはこうだ。『わたしは近くある者たちによって、わたしは自分が聖であることを示し、民全体に向けてわたしは自分の栄光を現す。』」アロンは黙っていた。
- (3) 10：4～5 モーセはアロンのおじウジエルの子、ミシャエルとエルツアファンを呼び寄せ、彼らに言った。「近づいて行って、あなたがたの身内の者たちを、聖所の前から宿営の外に運び出さない。」彼らはモーセが告げたとおり、近づいて行き、長服をつかんで彼らを宿営の外に運び出した。
- (4) 10：6～7 モーセは、アロンとその子エルアザルとイタマルに言った。「あなたがたは髪の毛を乱してはならない。また衣を引き裂いてはならない。あなたがたが死ぬことのないように、また御怒りが全会衆に下らないようにするためである。しかし、あなたがたの身内の者、すなわちイスラエルの全家族は、主が焼き殺した者のことを泣き悲しまなければならない。また、あなたがたは会見の天幕の入り口から外へ出てはならない。あなたがたが死ぬことのないようにするためである。あなたがたの上には主の注ぎの油があるからだ。」それで彼らはモーセのことばどおりにした。

□イスラエルの人々がシナイ山のふもとに着いたとき、主は、次のように言われた。

「あなたがたは、わたしにとって、祭司の王国、聖なる国民となる。」（出 19：6）祭司は王の役割も担う重要な地位である。そのために主からの油注ぎを受けて、聖別される。

油注ぎを受けたアロンの二人の子ら（ナダブとアビフ）の責任は、主の命令のとおりに行うことであるが、二人はそれに違反した。その代償は、肉体の死であった。

そのことは前もって警告されており、そのようなことにならないよう、7日間の任職式を通して、主の命令のとおりに行うよう反復して訓練を積んだ。にもかかわらず、二人は主の命令から外れたことを行った。

その兄たち二人の死を見た、二人の弟たち（エルアザルとイタマル）が祭司となって、アロンの家系による祭司職は再出発することとなった。